

第9回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議 議事録

【日時】令和元年（2019年） 6月28日（金） 14:30～17:00

【会場】北海道医療大学サテライトキャンパス

〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ 45 12階

【開催実行委員】菅原 満（北海道大学）、梅田純代（北海道科学大学）、
小林道也（北海道医療大学、委員長）

【出席者】全国65大学・薬学部から71名の教員が参加した。

1. 小林委員長より開会の挨拶があった。
2. 小林委員長より、平成31年4月26日に開催された第6回薬学教科担当教員中央会議についての報告があり、次回のコアカリキュラムの改訂に向けて、各教員会議においてコアカリの問題点等について協議していくことについて説明があった。
3. 小林委員長より、本教員会議開催に向けて行われたアンケート調査結果について、説明があった。
4. 小林委員長より、本日のグループワークについての趣旨説明と実施についての説明があり、以下の要領でグループ討論を行った。
テーマ： コアカリ GIO/SBO と授業の現状把握ならびに問題点の抽出
班分け：70名を12グループに分けた。（別紙1）
グループワーク課題（別紙2）として、
「医薬品情報学教育の現状をアンケート結果等から把握し、現在のコアカリの問題点を抽出し、どのようなコアカリを作成すれば（方略を立てれば）解決できるかについて議論した。なお、今回のワークショップでは、『E3（1）医薬品情報』に限定して行った。

約1時間半と短い時間ではあったが、活発なグループ討論が行われた。各グループのプロダクトは小林が取りまとめて、医薬品情報学教科担当教員にメール送信することで情報の共有を行うこととした。
5. 次年度、第10回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議は、2020年6月28-29日に日本医薬品情報学会学術大会が大阪薬科大学 教授 中村敏明先生を大会長として行なわれることから、6月27日（金）に大阪薬科大学で開催を担当することとなり、中村敏明先生よりご挨拶があった。なお、委員長は変わらず小林が担当する。
6. 小林委員長より閉会の挨拶があり、会議がすべて終了した。

（文責：北海道医療大学 小林道也）

別紙1 参加者グループ表

班	大学名	氏名	班	大学名	氏名
A	北海道大学	菅原 満	H	医療創生大学	石川 暁志
	東邦大学	吉尾 隆		北里大学	岩澤 真紀子
	武蔵野大学	永井 尚美		岐阜薬科大学	中村 光浩
	愛知学院大学	河原 昌美		近畿大学	細見 光一
	兵庫医療大学	藤野 秀樹		安田女子大学	新井 茂昭
	松山大学	渡邊 真一		崇城大学	吉武 康之
班	大学名	氏名	班	大学名	氏名
B	北海道科学大学	千葉 健史	I	高崎健康福祉大学	土井 信幸
	東邦大学	植草 秀介		慶應義塾大学	堀 里子
	昭和薬科大学	長南 謙一		静岡県立大学	古島 大資
	鈴鹿医療科学大学	榎屋 友幸		名城大学	大津 史子
	兵庫医療大学	森山 雅弘		摂南大学	首藤 誠
	九州大学	江頭 伸昭		福山大学	片山 博和
班	大学名	氏名	班	大学名	氏名
C	青森大学	佐藤 昌泰	J	城西大学	大島 新司
	東京理科大学	佐藤 嗣道		昭和大学	半田 智子
	昭和薬科大学	大和 幹枝		名古屋市立大学	菊池 千草
	立命館大学	上島 智		大阪大谷大学	初田 泰敏
	武庫川女子大学	栗原 晶子		広島国際大学	佐和 章弘
	第一薬科大学	窪田 敏夫			
班	大学名	氏名	班	大学名	氏名
D	岩手医科大学	西谷 直之	K	日本大学	日高 慎二
	千葉科学大学	生城山 勝巳		明治薬科大学	大野 恵子
	帝京大学	鈴木 義彦		神戸学院大学	小畑 友紀雄
	京都薬科大学	橋詰 勉		徳島大学	佐藤 陽一
	姫路獨協大学	木下 淳		九州保健福祉大学	下堂 蘭 権洋
	福岡大学	右田 啓介			
班	大学名	氏名	班	大学名	氏名
E	東北大学	菊地 正史	L	日本薬科大学	久保田 洋子
	城西国際大学	佐田 宏子		明治薬科大学	石川 洋一
	新潟薬科大学	坂爪 重明		名城大学	酒井 隆全
	大阪大学	高木 達也		神戸薬科大学	土生 康司
	岡山大学	合葉 哲也		徳島文理大学香川薬学部	飯原 なおみ
	長崎大学	川上 茂		山口東京理科大学	田中 宏幸
班	大学名	氏名			
F	東北医科薬科大学	村井 ユリ子			
	帝京平成大学	荒川 一郎			
	富山大学	新田 淳美			
	大阪薬科大学	中村 敏明			
	就実大学	毎熊 隆誉			
	長崎国際大学	山口 拓			
班	大学名	氏名			
G	奥羽大学	中川 直人		北海道医療大学	小林 道也
	東京大学	佐藤 宏樹			
	北陸大学	毎田 千恵子			
	大阪薬科大学	角山 香織			
	広島大学	猪川 和朗			
	熊本大学	成田 勇樹			

ワークショップ

コアカリ GIO/SB0 と授業の現状把握ならびに問題点の抽出

【目的】 医薬品情報学教育の現状をアンケート結果等から把握し、きたるモデルコア・カリキュラムの再改訂にむけて「現在のコアカリの問題点」を抽出し、どのようなコアカリを作成すれば解決できるかを皆さんで考えてみたいと思います。今回のワークショップでは、E3 すべてを議論している時間は無いと思いますので、『E3（1）医薬品情報』に限定いたします。

【方法】 各テーブルは6名ずつ（一部5名）と比較的少人数とさせていただきました。司会と書記をお決めください。

「問題点の抽出」については、KJ法でやるもよし（紙や付箋等は適宜お使いください）、フリートークで討議するもよしです。各テーブルにお任せします。

【プロダクト】 各テーブルにA3判の紙を用意しています。グループ討議で挙げられた問題点について、箇条書きで記載して下さい。なお、特に改善が必要と考えられる項目については、○をつけるなどして分かるようにしてください。

【フィードバック】 皆さんから抽出された問題点は、後日、エクセル等にまとめてメールにて配信いたします。なるべく読みやすいようにまとめておいていただけると幸いです。

★問題の着眼点については、SB0を一つ一つチェックする、SB0を実施するための方略（講義時間、講義・演習・実習を行うための部屋、担当講師、授業ツールなどなど）、らせん型のカリキュラムの設定 などなど様々にあると思います。どうぞ色々な視点で問題点を抽出してみてください。